

現場対応共有へ報告口会

新型コロナウイルス 横浜で医師、介護職員

新型コロナウイルスのクラスター（感染者集団）発

生に備えようと、感染事例報告会が27日、横浜市西区

で開かれた。集団感染が確認された県内2病院、利用者ら3人が感染した介護施設

の職員が経緯や対策法、課題などを細部にわたって発表。感染拡大を食い止めるべく知恵を絞り合った。

主催したのは県医師会。「クラスター発生時の迅速な対応や予防につなげた

い」（菊岡正和会長）との狙いから情報共有のために

企画され、インターネット中継を通じて医療従事者ら約600人が視聴した。

職員と患者計80人の感染が確認された聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院（同市旭区）から、救命救急センター長の榊井良裕医師が登壇。感染1例目が泌尿器科の患者だったことから、「全患者が感染者になり得るという想定が不十分で対応に甘さがあった」と明かした。職員同士の密を避けるために各部署の部屋を離れたことを説明しつ

つ、院内の人事異動によって「情報共有に遅れが生じた」とも振り返った。

一方、菊名記念病院（同市港北区）では医師ら職員16人の感染が発覚。赤間仁

見看護部長は

染経路不明率は高止まりの状況が続き、県病院協会の窪倉孝道副会長は「G.O. T.O. キャンペーンが本格実施される今後も予断を許さない」と危機感を募らせる。榊井医師は「学会の発表では情報共有の範囲が限られていた。クラスター発生を防ぐために外部に情報を発信することがわれわれの役目であり、とても貴重な機会だった」と気持ちを新たにした。（清水 嘉寛）

院内感染の対策と課題を振り返る聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の榊井医師



榊井医師は「学会の発表では情報共有の範囲が限られていた。クラスター発生を防ぐために外部に情報を発信することがわれわれの役目であり、とても貴重な機会だった」と気持ちを新たにした。（清水 嘉寛）